

Friendly Awara

第1次福井県立金津高等学校 日中友好姉妹校訪問団派遣

～第24次あわら市日中友好親善少年使節団とともに～



姉妹校魯迅中学の前にて

～ごあいさつ～

会員の皆様におかれましては、紹興市との友好交流活動にご協力賜り厚くお礼申し上げます。

さて、あわら市と紹興市の友好交流の歴史は27年目を迎え、昨年は両市の申し合わせにより大きな訪問団の交流はなかったものの、第24次日中友好親善少年使節団に同行する形で第1次金津高校日中友好姉妹校訪問団が紹興市を訪れ、交流を深めました。金津高校は魯迅中学との友好校締結から初めての中国訪問となり、新たな青年間の交流が始まったものと感慨深く、ご尽力いただいた関係者の皆様にお礼を申し上げたいと存じます。

今年は、紹興市が建城2500周年を迎えることから、私や市議会議長はじめ総勢5名が7月にお祝いに駆けつきたいと考えております。

結びに、交流が始まって26年の年月が経過し、中国経済は大きく発展を遂げましたが、これまでどおり藤野巖九郎と魯迅の師弟愛に始まったこの交流を育み、次世代に引き継いでいきたいと考えておりますので、引き続き会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。



会長

～中国見聞録～ 【特集】

第1次福井県立金津高校日中友好姉妹校訪問団

平成20年9月24日の中国紹興市の魯迅中学と福井県立金津高等学校の友好校締結から、初めての訪問団が派遣されました。出発前には、顧海燕氏を講師とする中国語講座を計4回、交流会の練習を計3回行うなど、10月末から渡航の準備を行い、12月7日から6日間の日程で少年使節団に同行する形で行われました。

「中国見聞録友好の絆」より 12月7日（月）

上海空港からのバスの窓から目にする光景は今の中国の勢いを感じさせるものであり、スケールの大きさを感じさせるものばかりでした。来年の万博に向けて建設中の新幹線や西洋風の住宅、高層マンションなどなど。自分にとって初めての中国なのですが、これが自分のイメージしていた国なのかと少し衝撃を感じました。未開発の部分はありませんが、それでもやはりスケールには圧倒されます。



上海空港にて

12月8日（火）

午前中は魯迅記念館を見学し、人民政府を訪問しました。校生だけは自己紹介をしっかりと中国語ですることができ、迅中学を訪問したのですが、直前に知らされた予定では生徒との交流会はなく、事務局長と数人の教員による歓迎式、記念品の交換があるということでした。・・・ホームステイをさせてもらう生徒たちが部屋に入ってきてからは交流ムードが一気に高まりました。手をつないで校内を見学する様子や、英語や筆談を駆使して話し合う生徒の笑顔を目にしたとき、本当にここにきて良かったと初めて実感することができました。形式的なことよりも、生徒たちが実際に触れあうことが大切なのだと思います。

緊張するはずの状況の中でも、高頼もしく感じました。その後、魯



魯迅記念館にて

12月9日（水）

すでに英語の授業が始まっていて、生徒たちも教室後方に座っていました。クラスの人数は50人、決して広くない教室は余分なスペースは見あたりません。英語の授業が行われていたのですが、英語科の教員の私にとっては刺激的なものでした。授業はすべて英語で行われており、黒板を使用せず、代わりに黒板の位置に設置されたスクリーンにプロジェクターから映し出された教材が使用されていました。女性教師はマイクを使用し、テンポよく説明、質問をしていきます。・・・日本の英語教育は遅れているのかもしれない。ショックにも近い思いでした。生徒たちも同じような思いであったに違いありません。



魯迅中学校にて（英語の授業）

12月10日（木）

交流も4日目に入り、中国にいることに違和感がなくなりました。上海の人気スポットである新天地という場所を訪問しました。ここは町並みが西洋的に整備され、多くの西洋人の姿も見られました。・・・今日からの日程は史跡めぐりが中心となりましたが、教頭先生のアドバイスどおりに、生徒たちは説明を最前列で聞きながら多くのことを学んでいました。



北京の街にて

12月11日（金）

今回の姉妹校訪問で私が一番印象に残っていることは魯迅中学の生徒達の純真さです。暖房機器のない教室でコートを身につけながら、真剣な眼差しで教師を見つめる姿が忘れられません。「真の豊かさ」とは何なのかを考えさせられました。もし、来年、彼らが本校を訪れる機会があったら、全校生徒で歓迎をしてあげてください。それが交流の第二歩目になると思います。そこから本当の交流が始まるのだと思います。

(高倉指導員)



天安門広場にて

～友好の絆～

第24次あわらし日中友好親善少年使節団

第24次日中友好親善少年使節団（団長 手塚和典教育委員会委員長）一行16名（うち生徒12名）は、12月7日から12日までの6日間の日程で、中国紹興市や上海、北京を訪問しました。

出発直前に訪問の準備を進めていた生徒2名がインフルエンザにかかり参加できなくなり、とても残念な思いをされたそうです。

紹興市では、歓迎式典や交流会、ホームステイを通して人々や食などの文化に直接触れ合いながら学び、上海市内や北京の天安門広場、魯迅博物館、万里の長城など、歴史遺産等を見学しました。

この訪中により、生徒たちが現在の中国事情を直接見て、また文化の違いを肌で感ずる良い機会となりました。



紹興文理学院附属中学校にて



蘭亭にて

第7回あわら市・南砺市ゲートボール交流

恒例の南砺市（旧福光町）とあわら市のゲートボール大会が3月10日、11日南砺市福光屋内グラウンドで開催されました。今回は第7回目で、両市から8チーム、42名が参加し、熱戦が繰り広げられました。残念ながら、本市から参加したチームは、コートが慣れない人工芝ということもあり、実力を十分に発揮することができませんでした。



巖九郎記念館から ～新メンバー紹介～



リュウ トウレン
劉 冬蓮さん

1989年4月に中国から留学生として来日し、日本語専門学校で日本語を習得。1995年3月、大阪産業大学工学部卒業。日本の企業に10年間勤務。「現在、市の職員として、藤野巖九郎記念館で資料整理や翻訳業務を行っています。これからも、日本と中国、あわら市と紹興市の友好交流の架け橋となれるように努力しますので、よろしくお願いします。」

来館者数 平成21年度総数
累計

1,484名（内中国の方 233名）
36,403名（内中国の方 4,262名）

〈平成21年度の主な交流内容〉

2009年

- 5月26日 あわら市日本中国友好協会総会（市民文化会館）
- 6月6日 NPO 法人福井県日本中国友好協会総会（福井県青年館）
- 27日 梁晋中華人民共和国名古屋総領事館領事他26名が藤野巖九郎記念館来館
- 8月8日 新生「福井県日中友好協会」30周年記念大会（福井パレスホテル）
- 9月15日 上海VJC（ビジット・ジャパン・キャンペーン）で藤野巖九郎記念館取材（一行15名）
- 12月7日 第24次あわら市日中友好親善少年使節団派遣
（団長 手塚和典教育委員会委員長）一行16名（12月7日～12日）
- 第1次福井県立金津高等学校姉妹校訪問団派遣
（団長 高木嘉紀教頭）一行8名（12月7日～12日）

2010年

- 2月21日 張立国中華人民共和国名古屋総領事他4名が藤野巖九郎記念館来館
- 23日 紹興市印刷有限公司社長 沈 大嘩（書道家 沈定庵氏の御子息）他2名来市
- 3月10日 第7回あわら市・南砺市ゲートボール交流会（南砺市 3月10日～11日）

編集後記 2009年度は、新型インフルエンザの影響等から相互交流の機会が減少しましたが、魯迅中学と金津高校の新たな青年交流が始まり大変喜んでいます。今年は紹興市が建城2500周年という節目の年を迎え、更にこの交流が発展することを期待したいと思います。